

2020 年度海洋教育実施状況報告書

1. 実施概要

活動名 海人科 ～海人が活躍した糸満の海を学ぼう～

| 単元名                   | 学年    | 教科                  |
|-----------------------|-------|---------------------|
| 1. 浜辺で遊ぼう             | 1年    | 生活科                 |
| 2 海の生き物探し.            | 2年    | 生活科                 |
| 3. 魚を捕まえる道具を知ろう（作ろう）  | 3年    | 海人科、図工、社会科          |
| 4. 海の生き物、環境等、学年の計画で活動 | 4年～6年 | 海人科、総合的な学習、社会科、国語 等 |

取り組みの概要

【6年生】①ウニの放流体験・・・人工授精したウニを放流する体験。沖縄水産高校海洋生物科と連携。  
 ②沖縄水産高校との交流会・・・講演会を聞く（本校体育館にて）  
 6年生の発表資料の作成アドバイス  
 作成した資料の発表会（5年生も参加）  
 国語の単元と関連して発表会。沖縄水産の学生に

【5年生】①ウニの人工授精・・・ウニの人工授精体験を実施。沖縄水産高等学校海洋生物科と連携。  
 ②離島体験（石垣島）にて・・・ビーチクリーン作戦、魚さばき体験、  
 シェルランプ作成（サンゴや貝殻利用）  
 パンフレット作り（糸満の海、石垣島の海）

【4年生】①セリ市見学、魚料理（朝ご飯）を食べよう。

【3年生】①罾づくり・・・魚捕獲の罾を各自身近な材料で作成。リーフトレイルにて捕獲作戦。  
 ②魚飼育・・・魚の実態を観察するために学年で水槽にて海水魚を飼育。  
 ③見学・・・沖縄県立博物館見学。海人工房資料館見学。社会科単元と関連して実施。

【2年生】①リーフトレイル体験。・・・海の生き物の観察。沖縄水産高等学校海洋生物科との連携。

【1年生】①浜辺遊び・・・北名城ビーチにて浜辺あそび。浜辺の生き物を見つけたり、浜辺で砂遊びや貝殻やサンゴを拾ったりする。  
 ②貝やサンゴで作成・・・拾った貝やサンゴで写真立ての枠・リース枠作成。



1年浜辺遊び



5年ウニの人工授精



3年 作った罾仕掛け

## 2. 自己評価

### 【妥当性】

◎今回のテーマと目標の設定は有効でしたか？

○色々な角度から海についての学習を深めることができた。特に教科との関連し、時間短縮にもなった。

◎学習内容の分量は適切でしたか？（無理のない目標・計画でしたか？）

○総合的な学習の時間や他教科と関連付けて計画を立てることである程度無理なく計画を立てることができた。

◎内容は対象児童・生徒のレベルに適切でしたか？

○学年や内容によりばらつきが有り、今後学年や内容に応じて検討する必要あり。

### 【有効性】

◎内容は計画通りに実施されましたか？

○今回は休校期間やコロナウイルス感染防止対策のため活動に制限が有り計画通りに行かない内容もあったが工夫して行うことができた。ただ天候に左右される活動では前日まで不安であった。

◎協力要請した外部機関との連絡体制や指導内容は良好/適切でしたか？

○外部機関は協力的で連携しやすかった。

◎助成事業に対する地域や保護者からの理解は得られましたか？ 実施後に家庭や地域への知識や情報の広がりが見られますか？

○児童の安全管理など、ボランティアで多くの保護者が協力してくれた。

### 【効率性】

◎学習活動の実施時期は適切でしたか？

○体験学習等は関係機関も予約等の時期が集中するためなかなか予定通りに実施できない場合もあった。

◎物資・資金・派遣講師（人員）の規模や質は適切でしたか？

○今年度も昨年度に引き続き予算も十分にあったので校外での活動もやりやすかった。

◎実施期間の設定は適切でしたか？（計画内容を設定期間内に終えることができましたか？）

○今回は休校期間やコロナウイルス感染防止対策のため活動に制限が有り計画通りに行かない内容もあったが工夫して行うことができた。

### 【成果】

◎期待した成果は得られましたか？

○海の生き物や糸満のサバニの歴史など地域の理解につながった。海の環境を守る視点から発展し、身近な自然環境を守る必要性を感じるようになった。

◎学習目標と本活動との関連性は明確でしたか？

○他教科の目標との関連付け行うことができたが、今後さらに深めていきたい。

◎活動は児童・生徒の海洋への関心を高める契機となりましたか？

○昨年の活動をさらに深めていくことによりより、海洋への関心を高める事ができた。

### 【持続性】

- ◎活動に必要なノウハウ・知見・技術等が教員間で共有されていますか？
  - 学年間を通して共通な連携ができようとして各学年で今後研修が必要だと感じる。
- ◎学習内容や成果物が適切に活用される（見込み）がありますか？
  - 今年度は隣学年間の発表会が全学年でできない状態である。資料の掲示等を通して次年度へのつなぎ方を検討中。
- ◎学習した内容を継続・応用する仕組みは考慮されていますか？
  - 隣学年では確認ができるが全学年を通した継続・応用する仕組みが必要である。次年度へのつなぎ方を検討中。

### 【信頼性】

- ◎担当教員は学習内容について十分な知識・技術を有していましたか？
  - 昨年の資料や経験から海洋についてかなりスキルアップしているが、より専門的な知識や技術を習得するために今年度実施しながら学んでいる状態。
- ◎実施に当たり、十分な体制が整えられましたか？（教員間連携、安全対策、チェック体制）
  - 事前に現地へ行って確認したり、緊急連絡網を作成したり、十分な体制を整える事ができたが、細かい点では今年度の反省をふまえて改善していく。
- ◎実施内容について外部公表・発信・共有していますか？
  - 他の3小学校や中学校と情報を共有していく必要があるが。今年度はできなかったため次年度は共有していきたい。

### 【その他コメント・感想】

- 海洋教育に取り組むことにより地域のよさや海の素晴らしさに気づくことができた。また高校生や各関係機関の団体との交流や、体験活動をまとめて発表することでコミュニケーション能力の育成にもつながると考える。予算も十分にあり校外での活動がしやすかったが、今回は今回は休校期間やコロナウイルス感染防止対策のため活動に制限があり、計画通りに行かない内容もあったが工夫して行うことができた。昨年度は体験活動が中心であったが、今年度はさらに「広げよう」の観点から海から「地域の環境や地域の歴史」、「昔の道具の工夫」、「自然や生活環境を守る」等で他教科との関連し、広げることができた。

### 3. 学校関係者評価